

羅 針 盤			方 策	点検・評価 自己 評価	外部 アンケート 等	達成度 総合	達成状況のまとめ及び次年度の課題	学校関係者評価
評 価 対 象	評 価 項 目	具体的数値項目						
Ⅰ 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	1) コース制・選択科目等を導入している教育課程（カリキュラム）に生徒の80%以上が満足している。（A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満）	○農業の将来性や地域の課題、生徒の実態を踏まえ、教育力をさらに高められる教育課程になるよう評価検討する。	A	A	A	【達成状況のまとめ】 ・各学科の専門性のある教育課程において、本校の特色を活かした学習活動を充実させてきた。また、各学科で地域交流、地域貢献活動、高大連携等を積極的に行った。 ・1年次は基礎科目を学ぶ中で課題発見力の育成を行い、2年次では中核科目を学ぶ中で課題解決力を育成し、3年次では課題解決実践力を身に付ける教育課程となっている。	・農業高校としての特色を十分に活かした教育活動が系統的に行われていると感じる。今後も農業の抱える課題について主体的な学習が充実するようにお願いしたい。 ・地域の諸課題に眼を向けさせ、学習へのインセンティブとするなど、日常の取り組みのきめ細かさがよくわかる。その成果が報道等の成果となっている。 ・課題研究発表会でもよくわかったが、生徒の取り組んでいる学びがとても多彩であることは特筆できる。1、2年次の生徒が達成に期待できる環境を作られると良い。 ・各学科の中にもたくさんのコースがあり、生徒が楽しく勉強できるようになっていると感じる。 ・地域の方とのふれあひも楽しく充実している。
		2) 地域交流、地域貢献の活動に全学科で取り組んでいる。（A 全学科 B 4学科以上 C 3学科以上 D 2学科以上）	○各学科の特徴的な取り組みに沿って、地域との連携や協働を活かに行い、社会に開かれた学校づくりに取り組む。	A	A	A		
		3) 学校が好きだと感じている生徒が70%以上である。（A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満）	○生徒がより充実した学校生活を送れるよう指導内容や指導方法を工夫することで魅力ある学校づくりに積極的に取り組む。	A	A	A		
Ⅱ 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	2 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	4) 授業に生徒の75%以上が満足している。（A 90%以上 B 75%以上 C 60%以上 D 60%未満）	○基礎基本を習得させ、思考力・判断力・表現力を育成するための授業の工夫・改善を推進する。	A	A	A	【達成状況のまとめ】 ・基礎学力の定着に向けて、生徒にとって「わかる授業」、「ペア学習やグループ学習を取り入れた主体的・対話的で深い学び」を展開し、個に応じた指導を行った。 ・校内研修として授業の相互参観等を行い、教員相互で高め合うよう取り組んだ。 ・ICTを活用した授業の工夫や、観点別評価を意識した指導の工夫等を行い、指導と評価の一体化を図った。 【次年度の課題】 ・BYODを意識し、ICT機器を積極的に活用していくとともに、授業方法や評価方法に関する意見交換を活発化させるような環境を整える。 ・生徒の現在の学力について実態をしっかりと把握するとともに、生徒の基礎学力を向上させるための工夫や枠組みをこれまで以上に充実させていく。	・アンケート結果からも授業に満足している生徒が9割を超えているので、指導を充実させていると感じる。一方、確かな学力が身に付いているかはB評価なので、指導結果の検証を進めることが必要と思われる。 ・生徒自身の身に付けた知識や実践力をアウトプット（社会化）する機会を指導に活かしている様子がよくわかり、成果もあけており頼もしく感じる。 ・生徒が受け身で学ぶだけの姿勢であることに、教える側が焦るのはとても理解できる。積極性を引き出す工夫のためにも、教員側に時間等の余裕があってほしい。 ・クラス全員が授業に参加できるような工夫がされている。生徒の理解度につながると思う。 ・課題研究等、積極的に学習ができていると思う。
		5) 授業改善のための研修会や教員相互の参観期間、研究授業等を年3回以上実施している。（A 年3回 B 年2回 C 年1回 D 年0回）	○授業改善推進委員会を中心に、授業公開や研究授業等を設定し教員相互に授業を見合うことで授業改善を推進する。	A		A		
	3 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	6) 意欲的に学習に取り組んでいると自己評価している生徒が70%以上である。（A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満）	○基礎力診断テスト等の結果を踏まえ、生徒に適切な指導を行い、学習に対するモチベーションを高めていけるような工夫をしていく。	B	A	A		
Ⅲ 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	4 組織的・継続的な指導を行っていますか。	7) 生徒クラブ活動に生徒の70%以上が満足している。（A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満）	○農業クラブ活動の各種大会・競技会等への参加や生徒活動関係（文化祭、体育大会、部活動等）を充実させる。	A	A	A	【達成状況のまとめ】 ・各種発表大会や生徒クラブ活動について、生徒が主体的に活動できる工夫を行い、行事の充実を図った。 ・服装頭髮指導（身だしなみ指導）を定期的に実施するとともに、日常の生徒指導の充実を図った。また式典等での身だしなみについて意識させる取り組みを行った。 ・法令遵守のいじめ対策委員会の実施やケース会議を行い、早期の実態把握、情報の共有化を図った。 ・二者面談の機会を充実させるとともに、ICTを活用した心の健康観察を毎週実施した。生徒が相談しやすい環境の構築、情報共有化を図った。 ・家庭との連携を密にし、個に応じた対応を図るためにスクールカウンセラー、教育相談係、外部機関等が連携して対応に当たった。 【次年度の課題】 ・生徒の意見を行事に反映させ、生徒クラブや各クラス代表生徒が主体的に行事に参加できるような工夫を構築していく。 ・交通安全の意識向上、交通ルールの遵守などきめ細やかな指導の充実を図るとともに自転車登校生徒にヘルメット着用の重要性をさらに周知徹底していく。 ・欠席率、遅刻率が低評価となった。生徒の健康状態を把握し保護者との連携やスクールカウンセラー、教育相談係との連携を充実させるとともに、生徒一人ひとりの状況を理解し、適切な対策を構築していく。	・生徒の学校生活が充実していることは良い。頭髮検査については保護者から改善要望が散見されるが、どのような髪型が良いかの判断を生徒に考えさせる指導が大切である。また、指導する側が現代の社会通念上、決まりの意味をどのように捉えるべきか共通認識を十分にすることがある。いじめの根絶には定期的なアンケートの他、常時指導の充実が欠かせないので、一層取り組んでほしい。 ・きめ細かく迅速に、そして全体で情報を共有し、また、同じ価値観として指導にあたっている様子が、生徒一人ひとりの雰囲気や実績からもよく伺える。また、生徒が相談しやすいような環境を整えることが要諦である。職員一人ひとりの認識が強く感じられる取り組みで成果もよくできていてと感じる。 ・挨拶は「慣れ」でもあるので根気強く指導してほしい。また、ヘルメット着用も命に関わることでなので向上に期待する。 ・最近の若い人は未知の相手との電話が苦手な傾向にあるらしい。マナーとして実践できる機会があると良い。 ・ヘルメットの重要性はもっと子どもたちにも親にもわかってもらえるような何かが必要と考える。 ・子どもの気持ちに寄り添うような工夫も必要だと考える。
		8) 頭髮服装指導、登校時指導等を定期的に行っている。（A 定期的 B 月1回以上 C 学期2回 D 学期1回）	○学期の始業や終業時、式典等に向けて生徒の意識を喚起するとともに、身だしなみ点検を実施する。登下校時等に学校生活規則やマナー遵守の指導のため巡回する。	A	A	A		
		9) 自ら進んで挨拶できる生徒が70%以上である。（A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満）	○登下校時の挨拶運動や学校内での挨拶の励行を図る。	B	A	A		
	5 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に行っていま	10) 生徒への学校生活アンケートを3回実施し、組織的にいじめの未然防止、早期対処に努めている。（A 年3回以上 B 年2回 C 年1回 D 年0回）	○生徒への学校生活アンケートを実施し、いじめ対策委員会を中心とした組織的な対応、学年会議や係会議における情報の共有化を図る。	A	A	A		
	6 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	11) 遅刻率は1.2%（8.1人/日）以下である。（A 0.8%以下 B 1.2%以下 C 2.4%以下 D 2.4%以上）	○遅刻カードを利用し、保護者との連携や二者・三者面談を活用した個に応じた遅刻指導を実施する。	B	B	B		
		12) 欠席率は1.7%（11.4人/日）以下である。（A 1.3%以下 B 1.7%以下 C 2.2%以下 D 2.2%以上）	○健康管理の意識を育成するとともに、個に応じた教育相談的な対応を図り、保護者や養護教諭、スクールカウンセラーとの連携を充実させる。	D	D	D		
Ⅳ 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	7 計画的な指導を行っていますか。	13) 学校で良好な人間関係を築いている生徒が80%以上である。（A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満）	○二者面談による聞き取りや生徒指導、教育相談の充実を図るとともに、保護者との連携を図る。	A	A	A	【達成状況のまとめ】 ・各学年各学期に1回ずつの進路ガイダンスや、「教育実習生と語る会」「三年生と語る会」などの学校行事を実施し、生徒の進路意識の向上に努めた。 ・基礎学力向上のためにベネッセ「基礎学力診断テスト」を導入、3学期には「マナビジョン」に登録、Web解答形式で実施を試みた。今後は生徒たちが自分で、ドリルに取り組むことができるようになった。 【次年度の課題】 ・進学に伴う必要な費用や支援する様々な制度について早めに伝達し、保護者と連携することで意欲的に進学に向き合う体制を整える。 ・入社・入学試験本番前の準備不足が課題となった。早めの準備と個々に応じた指導に取り組みたい。	・定期的な進路情報の提供やガイダンスや進路相談会など、進路について考える機会が計画的に年間に位置づけられていることが良い。 ・学習指導と進路指導を下位学年次から日常的かつ有機的に関連づけ生徒一人ひとりの進路観の醸成を図り、立派な成果を出している。 ・課題研究発表会で卒業生の発表を見られたのはとても効用がある。また、進学の費用等については各家庭で切実な問題だと思うので、早い情報が望まれる。 ・進路ガイダンスや進路相談会、先輩方の体験談などは、子どもたちが進路を選択する上で有益であると感じた。 ・進路相談などは先生方が親身になって相談にのってくれるのでありがたい。
		14) 学校から提供される進路情報が役立っていると評価する生徒が70%以上である。（A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満）	○定期的に進路情報を提供し、計画的な進路指導を行う。進路指導室と資料提示を充実させ進路選択の促進を図る。	A	A	A		
	8 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	15) 進路実現に向けて積極的に取り組んでいる生徒が70%以上である。（A 80% B 70% C 60% D 60%未満）	○年2回の進路ガイダンスや進路相談会・インターンシップや進路対策講座等を実施し、情報を提供するとともに、生徒自身の適性理解につなげる。	D	A	B		
Ⅴ 開かれた学校づくりに努めていますか。	9 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	16) PTA総会、授業公開、販売会等の学校行事に1回以上参加している保護者が70%以上である。（A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満）	○メールやホームページを活用し、学校行事の開催方法等を工夫することで、各行事への出席を促す。	A	C	B	【達成状況のまとめ】 ・PTA総会や授業参観、販売会等、保護者や地域に学校行事について、多くの方々に参加していただけるように、その開催方法等を工夫した。 ・WEBページを活用し、日々の生徒の活動等を昨年度よりも件数を多く発信することができた。 【次年度の課題】 ・PTA総会については、参加人数が伸び悩んでおり、その開催方法等が課題である。学校開放等の機会を増やし、イベント等についてメール配信やHPを通して周知を工夫し、積極的な参加を促す。 ・HPで発信する内容について、各学科や部活動の取組状況をこれまで以上に積極的に発信し、生徒の活動について理解を深めて魅力化を図る。	・情報発信をよくしてもらっているが、情報の受け手のニーズをとらえるにより効果的な情報発信につながると考える。 ・学校開放の機会を増やすことは安全面からも大変だと思うが、WEBページをより活用することも段階的に必要だと考える。 ・在校生はあまり本校のWEBページを見ないように思うので、工夫すると良いと感じた。 ・保護者が授業に参加できるような形式にすると学校に関心が高まるのではないかと思う。
		17) ホームページ（webページ）を公開し、毎月更新をしている。（A 月2回以上 B 月1回 C 年6回以上 D 年3回以上）	○生徒・保護者・地域へ適切な情報や迅速な発信ができるように、学科・分掌・学年等の係間で連携を密に行う。	A	A	A		
Ⅵ 教育デジタル化に努めていますか。	10 ICTを活用した指導を行っていますか。	18) ICTを活用した授業に生徒の50%以上が満足している。（A 60%以上 B 50%以上 C 40%以上 D 40%未満）	○BYODを意識し、学習用端末の日常的な使用、授業での効果的な活用ができるように研修等を行い、学習活動の充実へつなげる。	A	A	A	【達成状況のまとめ】 ・学習活動や学校行事において学習端末を積極的に活用することができた。 ・欠席連絡をWEB連絡とすることで業務が大幅に削減できた。デジタル採点システムの導入により、テストの採点業務の効率化を図った。 【次年度の課題】 ・BYODを意識し、学習端末の日常的な活用、効果的な活用ができるように全職員で取り組む。 ・次年度より欠席連絡等の方法が変更される予定である。保護者への通知をしっかりと行い、システムの移行を円滑に進めたい。	・学習効果があがったり、個々の状況に応じて学習に取り組めるようにICTの活用を進めていただきたい。教育DXで欠席連絡の簡易化、テスト採点の効率化が図られ職員の業務改善につながったことはとても良い。 ・職業教育では「好き」を育成することも基本である。ICTを活用し少しでも生徒一人ひとりの「好き」を今後も効果的に育成してほしい。 ・進学、就職を問わず、WEB活用の場面は増大するばかりである。安易な発信が危険であることは是非伝えてほしい。 ・WEBによる欠席連絡は保護者にとっても楽で使い勝手が良かった。仕事の始業時間に関係なく連絡ができるのは助かっている。
	11 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	19) 欠席遅刻の連絡をWEB連絡で行う（行おうとしている）保護者が70%以上である。（A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満）	○働き方改革の一環として、欠席や遅刻の連絡の方法が切り替わったことを周知し、WEBを使用した連絡や調査等を推進する。	A	A	A		